

普及活動情勢報告（平成30年10月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

販売額 10 億円を目指して！ ～土佐甘とう生産者交流会の開催～



検討会の様子

10月18日、津野山地域で県内の土佐甘とう生産者や関係機関67人が参加し、生産者交流会が開催されました。

J A津野山宮農センターでの検討会では、園芸連から平成30園芸年度の販売経過の報告の後、販売額の拡大に向け、販促活動や栽培管理面の課題等について協議されました。

また、梶原町の雨よけ栽培ほ場の現地研修では、整枝方法や施肥管理等について情報交換が行われました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携しながら、土佐甘とうの生産振興に取り組んでいきます。

G A P点検の視点を学ぶ ～J A土佐くろしお集出荷場版G A P点検の実施～



G A P点検の様子

9月27日、J A土佐くろしおと環境農業推進課、農業改良普及課は、G A P審査員にアドバイザーとして参加していただき、J A土佐くろしお大間集出荷場で、集出荷場版G A P点検を合同で行いました。

アドバイザーからは、点検が単に点検項目ができていない・できていないの〇×をつけることだけになっていないか、できていないことがあればなぜできていないのか、点検項目毎の責任者を明らかにしておくことや、できていないことをどうやって改善し、できることを増やしていくのが大事である、などの助言を受けることができました。

農業改良普及課は、アドバイスを参考にして関係機関とともに集出荷場のG A P点検活動を行い農産物事故ゼロを目指し支援していきます。

新規就農者の経営安定を目指して！ ～関係機関と経営状況確認のための戸別訪問を実施～



戸別訪問の様子

9月27日、新たな農業の担い手育成支援の一環として、日ごろの栽培技術等の巡回指導に加えて、J A津野山及び津野町の担当者と一緒に、就農3年目となる生産者の経営状況の確認のための戸別訪問を行いました。

あらかじめJ Aが作成した3年間の収量・A品率・販売金額等の資料を参考にしながら、今作終了までの栽培管理と経営内容を確認するとともに、今作で明らかとなった課題を解決するため、栽植密度や臨時雇用など、次年度に向けた経営改善のポイントを生産者とともに共有しました。

農業改良普及課は、新規就農者の経営安定のため、関係機関とともに支援を続けていきます。

「GAP」の基礎から学びました。 ～須崎地区GAP研修会の開催～



須崎地区GAP研修会の様子

9月27日、JA土佐くろしお本所会議室に於いて、須崎地区GAP研修会を開催しました（参加44人）。講師にはJGAP上級審査員を迎え、「GAP」に取り組むために知っておきたい、「GAP」の基礎から講義いただきました。内容は、「GAP」誕生の背景や事故を起こさない農場に近づくための「GAP」という道具（手段）の使い方など。生産者16人の出席があり、「わかりやすい講義で、なぜGAPに取り組むのかよく理解できた。参加できなかった生産者にも聞かせたい。」等の声も聞かれ、取り組みへの意識向上がみられました。農業改良普及課は、今後も関係機関とともにGAPの取り組みを支援していきます。

従業員の雇用と定着に向けて！ ～「はちきん農業大学」で雇用に関する講演会を開催～



講演会の様子

10月11日、「従業員の雇用と定着において配慮すべきこと」のテーマで「はちきん農業大学」としての講演会を開催しました。講演会では、法人経営も個人経営も関係なく、農業に特化した募集段階から雇用、定着までの各プロセスで、経営者（雇用する側）として認識・準備しておくことなどについて、具体的事例を交えながら、丁寧な説明がありました。参加者からは、「就業規則、勤務体系や賃金体系の整備のほか、安全に対する教育も非常に大切と感じた」などの感想が聞かれました。農業改良普及課では、今後、「経営」をテーマとした「はちきん農業大学」の開催を計画しています。

ユズ産地の振興に向けた取り組みへの協力 ～JA馬路村と情報交換を実施～



情報交換の様子

10月4日、JA津野山の幹部役員とともにJA馬路村を訪問し、今年のユズの出荷についての情報交換を行いました。今年のJA津野山のユズは年始めの寒害で被害がでたものの、裏年の昨年よりは出荷量は多い見込みです。JA馬路村から10月22日より受け込み開始の説明を受けて、農業改良普及課からはモデル園地の肥大調査の結果、出荷可能な大きさまで肥大していることを報告しました。農業改良普及課は、今後も関係機関と協力してゆず産地振興のための支援を行っていきます。

秋期から冬期にかけての適正なニラ栽培管理を目指して ～現地検討会を開催～



現地検討会の様子

9月27日に須崎市および中土佐町にて、ニラ生産者12名を対象に現地検討会を開催しました。農業改良普及課から、収穫期の栽培管理とこの時期に発生する主要な病害虫と生態、防除法について説明を行いました。収穫については、夏期から天候不順で株が充実しにくい条件が続いたため、早刈りをしないよう注意すること、主要害虫であるネギアザミウマについては、春先の被害を低減するため、冬までに防除を徹底することなどについて周知しました。農業改良普及課は、今後も関係機関と協力してニラ安定生産のための支援を行っていきます。